



分析機器ノスタルジアの心理解釈

日本大学の吉川先生よりタスキを引き継ぎました酪農学園大学の中谷です。吉川先生とは、2014年11月に開催された第31回イオンクロマトグラフィー討論会にてお会いし、イオンクロマトを通じて懇意にさせていただいております。ちなみに、今回のリレーエッセイ執筆依頼の打診メールを受け取った2017年5月時点で吉川先生はアメリカ、私はオーストラリアと共に海外留学中であり、リレーエッセイの中で最も距離の離れたタスキの受け渡しになったのではないかと思います。

今回私の海外留学に際して、現職に奉職してから住み続けていた賃貸マンションを引き払うため、身の回りの物を整理することになりました。あまり多くない荷物は留守にする研究室の片隅に置かせてもらうことでことは済みましたが、車をどうするか悩みました。中古で購入した平成4年式マツダファミリアGT-Rは製造されてから今年で25年目、ノスタルジックカーとしてちょっとしたマニアに知られた車です。厳しい冬の北海道でもエアコンは動かない、ドアやトランクの開閉にちょっとしたコツが必要、去年はキーが真二つに折れるなど年式相応にトラブルが多々あるのですが、大学院生の頃からかれこれ15年以上乗り続けてきています。今秋に車検が切れるので廃車も考えたのですが、車検や修理時に懇意にしている自動車ディーラーより車検切れとなっても帰国時に車検整備を行ってくれるとの話をもらい、留学中も保有することに決めました。

前置きの話が少々長くなってしまいましたが、職場にも私の車と同様にそれなりに年経た分析機器があります。ポストク時代にお世話になった田中一彦教授より譲り受けた数台のイオンクロマトや液体クロマトは、製造から20年以上経たものもあります。また分光光度計や融点測定装置などは私の前任者で長年勤務されておられた教授から引き継いだもので、購入されてから20年、ものによっては45年以上経過しているものもあります。いずれも調子が悪くなることもあり、業者の方に「そろそろ新品にしませんか?」と言われつつも、新品を購入する予算がない、恩師や前任者から譲り受けたものであることなどと理由をつけて買い替えることはせず、修理しながら大切に使用させていただいております。

こうした年経た分析機器をみると、個人的に何とも言えない懐かしさを感じるがあります。ノスタルジア(nostalgia)は、消費者行動研究の領域において、過去(自分が生まれる前を含める)に思いをはせるときに生じる好意的・肯定的感情として定義されており、自分が直接体験した記憶に基づいて喚起されるものを個人的ノスタルジア、自分の生まれる以前の古き良き時代の物語や人物などへの感情移入として喚起されるものを歴史的ノスタルジアとして分類されています。さらに前者の場合、「心地よい」などの肯定的感情のみならず、「動揺した」などの否定的感情の両方を内包する複合的な感情であるとの解釈があります。また後者は、過去を理想化することで現在の生活から脱却したいという願望を示すものとされています。そう考えると、私の研究室に置いてあるイオンクロマトや液体クロマトは研究に没頭していた学生やポストク時代で使用していた分析機器であり、当時行っていた実験がうまくいったときの喜びや結果が



写真 オーストラリアのカスケード醸造所にて展示されていたpH計 (Jones model B pH electrometer)。

なかなか出ず苦悩したことの記憶を引き出ししていると解釈できます。また、過去に作られた分析機器を理想化し、自分も何か分析化学の発展に貢献したいという願望を潜在的に示しているとも解釈できます。いずれにしても、年経た分析機器を見かけることにより喚起されるノスタルジアは、物質の新しい分離や検出方法、その原理や概念を産み出していく分析化学に身を置く私にとって自己確認と共に人生の意味づけの一つとなっているような気がします。

さて、写真は留学先のオーストラリアで最も古い1832年に創業されたカスケード醸造所(Cascade Brewery)に展示されていたものです。棚の上に置いてあったので文字が読み取れず、最初は何か分からなかったのですが、背伸びして撮影した写真で確認するとpH計でした。後日インターネットで詳しく調べてみると、1952~57年にメルボルンで作成されたJones model B pH electrometerで、1950~60年代の*Crop and Pasture Science*誌に掲載された論文にも使用記載があるものでした。留学先でみつけたこの古いpH計に一人小躍りしたのはいうまでもありません。ただ傍から見れば、古い木箱に興奮するおかしな人だったかもしれません。

今回は、私がポストク時代にお世話になった研究室で知り合い、やはりイオンクロマトを通じて長年の付き合いのある高知大学工学部の小崎大輔先生にタスキを託しました。海外の大学で教育経験のある小崎先生の面白い話が聞けるのではないかと期待しております。私がこの執筆依頼を受けとったその日お願いしたところ、直ぐに快諾下さった小崎先生に心より感謝申し上げます。

〔酪農学園大学農食環境学群 中谷暢丈〕